

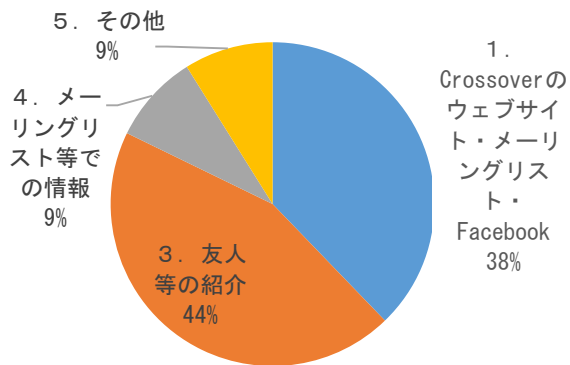
農業ディスカッション大会アンケート集計のまとめ

【回答数とアンケート全体の概要】

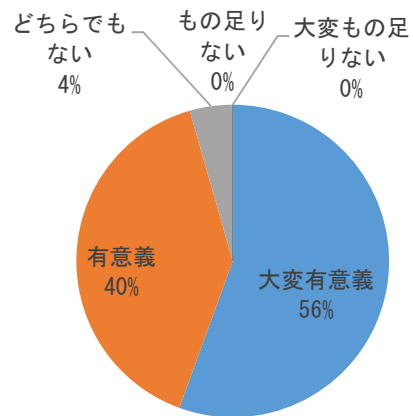
- ディスカッション大会参加者：62名（うちスタッフ14名）
- 有効回答数：45名
- 参加者層：Crossover 会員が4割、友人の紹介が4割と、新たな参加者層も多い。
- 参加者の感想：イベント全体、プレゼン、ディスカッション全てにおいて、有意義の回答が9割超（下記の円グラフ参照）。

【各質問項目の回答の概要】

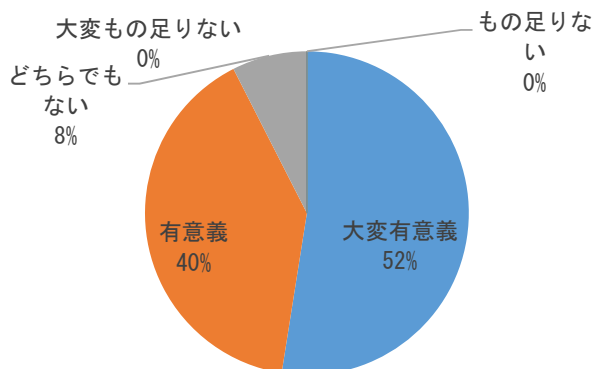
Q1 情報入手経路



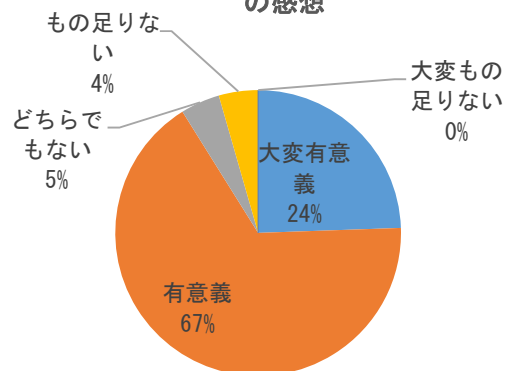
Q2 イベント全体の感想



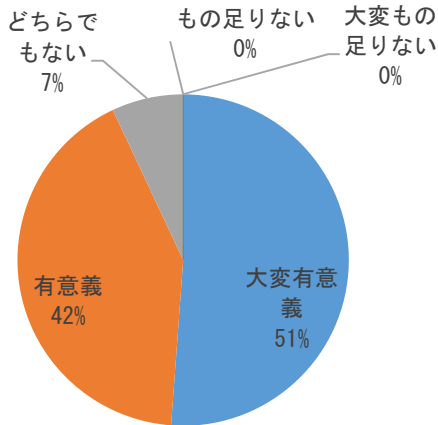
Q3 二宮のプレゼンテーションの感想



Q4 第一部のグループディスカッション（コメ農業の望ましい姿）の感想



Q5 第二部のグループディスカッション（消費者と農業のあり方）の感想



Q2 イベント全体の感想

- ① 農業は、本来、消費者に大いに関係し、考えなければならないはずであるが、関心が高くなくこれまでは自分事化していなかった。業種や経験が異なる方と議論することで、**自分だけでは思いつかない視点や気づき**があった。**参加者の多様性、農業という時事的なトピック、農業関係者からのプレゼン、若者も巻き込んだ議論**が新たな気づきの発見や自分ごと化へ大きな役割を果たした。
- ② 一方で、日本農業の未来について明確な答えや具体的なトピックに深掘りした内容を期待していた参加者には、農民不在による視点の欠如や拡散系の問いにより、事前の期待が満たされなかった方も一定数存在。
→事前告知の段階でコンセプトを固め、企画者が意図する参加者に焦点を当てた告知が必要。

Q3 二宮のプレゼンテーションの感想

- ① 農業の現状や課題について、エビデンスに基づいたファクトによる説明に加え、発表者自身の体験に基づく意見・問題提起をストーリー化しながら説明したことで、農業の全体像や農業を議論するうえで重要な論点を学ぶことができ、その後のディスカッションに有意義であった。
- ② 農業をとりまく最新のトピックの説明や、より深掘りした説明を希望する声も。
→発表者の経験や想いが抽象化・一般化された内容となっていたため、発表者自身が経験した個別の物語を提供し、時事トピックにつながる問題提起があれば、その分野に見識がある方でも満足度が高まる。

Q4 第一部のグループディスカッション（コメ農業の望ましい姿）の感想

- ① 農業従事者含め異業種の参加者が多く、多様な視点からコメ農業のあり方について議論することができた。ステークホルダーやその利害を洗い出すという作業により、ファシリテーターの仕切りのもと、**知識の幅が広がった**。
- ② 一方、拡散系議論のために論点が多く、その後に各者が win-win となる一定の結論を出すことは困難であった。
→一部の議論好きの参加者のコントロール、参加者への均等な時間配分と配慮、論点の収束、視点の偏りの是正や新たな論点の提供が必要。

Q5 第二部のグループディスカッション（消費者と農業のあり方）の感想

- ① マクロ（国家的視点＝自給率）とミクロ（個人の視点＝国産・外国産）という対立軸により、論点が明確化され、議論しやすかった。特に、個人の価値観や経験に基づき、多様な参加者と議論したことにより、自身と真逆の価値観や世代間の認識の違いなど多くの気づきがあった。
- ② 対立点と共通点をクリアにすること、前提の対立軸に拘りすぎずに視点を広げるアプローチがあれば、より議論に広がりが生まれたと思われる。
→議論の「広がり」と「収束」の両方をバランスよく提供する問いたてとファシリが必要。議論を拡散させすぎて論点がぶれること、論点を狭めすぎることによって議論が盛り上がらないことを防ぐ。

Q6 得た学び・気づき

- ① **【消費者】自身の無知を知ったこと**。そして、農業を考える視点が広がったことが、農業への関心の高まりに繋がった。農業が単なる食料生産の手段ではなく、環境・地域・ヒト・社会・国土・文化など、多くの観点から考える必要があることも学んだ。
- ② 上記の気づきが、**日々の生活でも農業をより身近に捉え直し、自分に何ができるかを考えるきっかけ**となった。実際に農業体験をしたり、農業との関わりを深めることで、農業を自分ごと化したいという想いを新たにした。また、農業に限らず、**日々の一つ一つの行動についても、じっくり考え、関心を高めていくことの必要性**を感じた。
- ③ **【生産者】**生産者と消費者の間に存在する、食や農業に関する情報量や認識のギャップの存在に改めて気づいた。**生産者や中間業者はどのように消費者と関わるべきか再考**する必要があるなど、農業関係者からも大きな気づきがあった。

Q7 今後の期待

- テーマ：みんなが考えていないテーマを自分ごと化して、その未来の姿を描く場。林業や農業テーマも引き続き希望。ビッグサイエンス、科学技術研究費など。
- 開催場所：関西、東北での実施も。
- 手法：班ごとにテーマを分けてディスカッションするのも一案（例：人口減少イベント）